

# 蘭亭繭紙入昭陵 世間遺跡猶龍騰

※この詩は七言古詩の最初の二句です。二十四句あるのでは省略しました。

## 【読み】

蘭亭の繭紙（けんし） 昭陵（しょうりょう）に入り 世間の遺跡（いせき） 猶（なお） 龍の騰（おど） るが  
ごとし

## 【意味】

かつて王羲之が書いた「蘭亭集」の繭紙は、唐の太宗・李世民の昭陵に納められてしまつたが、  
この世に残る遺された筆跡は、今なお、まるで天に舞い上がる龍のように、いきいきと輝きを放つてゐる。

\*繭紙：「繭」のようきめ細かく、滑らかで、柔らかい紙。「蘭亭集序」の真跡が繭紙に書かれていたという伝説的なイメージから \*昭陵：  
中国・唐代の皇帝「太宗（李世民）」の陵墓 \*起舞：舞いを始めれば。志氣を鼓舞すれば・心を高めれば \*肝胆在：まだ志が胸にあること  
\*世間遺跡：書の真跡は失われたが、この世にはなお、書や芸術の遺された痕跡（模写・精神・影響）があるということ \*孫莘老：孫莘老  
(孫覲 そん てき) は、北宋の政治家・文人。蘇軾の友人。 \*墨妙亭：孫莘老が建てた亭（文人たちの雅な場）

## 【出典】孫莘老 求 墨妙亭 詩(蘇軾・宋) (孫莘老 墨妙亭を求むるの詩)

孫莘老の求めに応じて、墨妙亭を詠んだ詩